

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式					
M313I201		地域医療政策論 (Community-based Health Care Policy)					医療マネジメント科目群		対面					
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語		その他に使用する言語		担当形態				
必修	1	2	医学部先進医療科学科	前期	火1	日本語				単独				
担当教員	氏名 中山 慎吾 E-mail nakayama-shingo@oita-u.ac.jp 内線 7518													
授業の概要	住み慣れた地域での自立生活を包括的に支援する「地域包括ケアシステム」の枠組みと専門職としての実践のあり方を理解することを目的とする。地域包括ケアの概念や関連する制度、地域包括ケアにおける多職種連携、地域包括ケアの実践について学修する。医療と福祉の連携に着目しつつ、地域包括ケアにおいてそれぞれの専門性をどう発揮するかを考える授業を行う。													
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7
目標1	地域での自立した生活を包括的に支援する「地域包括ケア」の概念や関連する制度について説明できる。							○		○	○			
目標2	地域包括ケアにおける多職種連携と住民参加のあり方について説明できる。							○		○	○			
目標3	地域包括ケアでの医療専門職、心理専門職、社会福祉専門職それぞれの役割を説明できる。							○	○		○	○		
目標4														
目標5														
目標6														
目標7														
目標8														
目標9														
目標10														
各DPへの関連度(計10)								4	1	2	2	1		
授業の内容														
1 地域包括ケアの概念														
2 地域包括ケアと介護サービス(地域包括支援センター含む)														
3 地域包括ケアと介護サービス(認知症ケア含む)														
4 地域包括ケアと障害者自立支援(難病患者支援含む)														
5 地域包括ケアと在宅医療・地域保健(医療圏・地域包括ケアシステムを含む)														
6 地域包括ケアと医療(がん患者支援含む)														
7 地域包括ケアと地域共生社会														
8 地域包括ケアと社会福祉協議会, 住民参加														
9														
10														
11														
12														
13														
14														
15														
ラーニング	A:知識の定着・確認	○					工夫その他の	毎回の授業の最後の数分間において、授業内容を振り返りまとめと感想を記録。小グループでの意見交換						
	B:意見の表現・交換	○												
	C:応用志向													
	D:知識の活用・創造													
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修	参考書や配付資料等をもとに予習する(5h)。												
	事後学修	参考書や配付資料等をもとに復習する(5h)。レポート等の課題に取り組む(8h)。												
	想定時間合計	23												
教科書	教科書は指定しません。授業中に配布するプリント等を使用します。													
参考書	隅田好美、藤井博志、黒田研二(編著)『よくわかる地域包括ケア』ミネルヴァ書房、2018年。 東京大学高齢社会総合研究機構(編)『地域包括ケアのすすめ』東京大学出版会、2014年。													

成績評価の方法及び評価割合	評価方法		割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	授業中の課題（振り返り記録等）		50%	○	○	○							
	レポート等の課題		50%	○	○	○							
注意事項													
備考		授業の内容等は進行状況に応じて若干の変更があります。											
リンク													
		URL											